



発行責任者 亀岡市立病院広報委員会

〒621-8585

京都府亀岡市篠町篠野田1-1

TEL 0771-25-7313

FAX 0771-25-7312

<http://www.city.kameoka.kyoto.jp/hospital/>

病院理念

- 急性期医療を中心とした適切かつ良質な医療を提供します。
- 患者さまの権利を尊重し、理解と納得に基づいた患者さま中心の医療を行います。
- 地域医療機関と連携し、地域に求められる救急医療・高度医療に取り組み地域医療の向上に貢献します。
- 公共性と経済性を考慮し、市民の理解と信頼を得られる透明性のある病院運営を行います。

CONTENTS

ごあいさつ	1
糖尿病内科開設のお知らせ	2・3
糖尿病教室からのお知らせ	4
臨床検査科より	4
がん化学療法看護認定看護師のご紹介	5
トピックス	6
ふれあい看護体験について	
病院職員紹介	6
地域連携医のご紹介	7
山口マタニティクリニック・宮前診療所	
編集後記	8
広報誌読者からのご意見等募集案内	8



ごあいさつ

「桔梗」vol.13 9月号をお届けします。季節はスポーツ・読書などや「天高く馬肥ゆる」とも言われます秋を迎えました。

私は美味しい恵みについ絆されないよう注意！注意！と気を引き締めております。こうした生活習慣にかかわります疾病の一つであります「糖尿病」について当院は専門医を迎えて6月から「糖尿病内科」を増科しました。必要とされます方々に身近で親切丁寧な対応でお役に立つ診療提供に今後とも努めてまいりたいと思っております。

9月は敬老月間でもあります。我が国は長寿の国として世界のトップを誇っております。亀岡市の100歳以上の方は40人(H25.8月現在)と聞きます。今後とも健やかなより良い安寧を祈念し心からお祝い申し上げます。

ところで、ある日のTVに思わず見入ってしまいました。働き盛りの機械工であった方が機械の調子点検中に機械に挟まれ右手の指を全て消失するというアクシデントを負とせず受け入れて、なおも日々の暮らしや生き方にプラスとなる様々な自助具を作製されているというお話です。80歳前のかくしゃくとしたその方は、まず、いかに事故にあった右手でお箸を使い美味しい刺身を食べれるか！その“夢を実現させたい”一念で3年試行を繰り返し、豆腐でもつまむことが可能となる箸付自助具を完成させ、その喜びが次なる自信に繋がり前向きな姿勢となり、以後今日までの長きに渡り数々の膨大な自助具を作製され、今後もあふれる思いに元気いっぱいの方です。

常に、何とか身丈に合う日々の工夫取組を、どんな状況であろうとやり抜く事、いつも夢を見て、喜びを感じ、前に向いて進む事、等々色々考えさせられました。1秒前は過去、1秒後は未来、今この一瞬1秒をしっかりと大切に過ごすこと、来し方行く末の大事を思った次第です。



亀岡市病院事業管理者 坂井 茂子

糖尿病内科開設のお知らせ

亀岡市立病院 糖尿病内科医長

野口 周也

本年6月1日、亀岡市立病院に糖尿病内科を開設致しました。今まで糖尿病専門医が不在であったこの地域に、糖尿病の専門診療を行う診療科を立ち上げるという重大な役割を務めさせていただく責任の重さに身の引き締まる思いです。

糖尿病は今や国民病ともいえるほど患者数の多い疾患で、メディアでも頻繁に取り上げられています。しかし、糖尿病という疾患は実際にどれだけ正確に人々に理解されているのでしょうか？“よく知っているように思うけれど、詳しいことはよく分からない”という人も多いのではないのでしょうか？正しい知識を持ち正確に理解しなければ、恐れる必要のないものを恐れてしまったり、逆に、持たなければならない危機感を持つことが出来なかつたりします。

糖尿病はインスリンというホルモンの作用不足が原因で、慢性的に血糖値の高い状態が続く病気です。高血糖の状態が長時間続くことにより、小さな血管から大きな血管までが障害を受けます。小さな血管が障害を受けると、3大合併症といわれる網膜症・腎症・神経障害が生じ、これらは最終的に失明や腎不全に至ります。大きな血管が障害を受けると、脳梗塞や心筋梗塞といった動脈硬化症を進行させます。適切な治療がなされ良好な血糖コントロールが保たれていれば、これらの合併症の進行を抑えることが出来ますが、適切な治療がなされず血糖コントロールが不良の状態が続けば、合併症は徐々に進行してしまいます。

高血糖の症状としては、口渇・多飲・多尿・全身倦怠感・体重減少などがあげられます。しかし、こういった高血糖の症状を自覚するのは極めて状態が悪い場合であり、多くの場合は無症状のまま経過します。この“症状が出にくい”という特徴が糖尿病の治療を困難にさせる大きな要因の一つです。症状がないために、健康診断などで糖尿病を指摘されながらも病院を受診しなかつたり、通院していても途中で通院を中断してしまつたりすると、その間に合併症が進んでしまいます。目の不調で眼科を受診し、糖尿病の網膜症で失明寸前の状態と診断されて初めて糖尿病に罹患しているのを知ることもあるほどです。また、せっかく通院を継続していても血糖コントロール不良の状態が続けば、無症状のままじわじわと合併症は進行します。このため、腎症が進行し尿検査でタンパクが陽性となっているにもかかわらず、全く危機感を持っておられないこともよくあります。一般的に腎症は3大合併症の中でも一番最後に出現するもので、糖尿病腎症が原因で尿タンパクが陽性になるということは、全身の合併症がそれなりに進んでしまっていることを意味しています。症状のない慢性の病気に向きあい、継続して治療に取り組むというのは容易なことではありません。しかし糖尿病の治療には、適切な薬物治療のみならずライフスタイルの改善など患者様自身の努力が不可欠で、これらの両方がうまくいって初めて良好な血糖コントロールを得ることが出来ます。だからこそ、糖尿病の治療においては、まず患者様自身に糖尿病という病気に対して理解を深めていただき、治療の意味や目的を明確にさせていただくことが大切となります。

近年、糖尿病治療薬はインクレチン関連薬をはじめ、めざましい発展を遂げています。現在、数多くの内服薬が存在し、注射薬としても様々な性質をもったインスリン製剤のほかインクレチン関連薬の注射薬も存在します。これらの多岐にわたる薬剤の登場により糖尿病の治療は大きく向上しました。しかし、これらの薬剤は個々の患者様の体質・病態を的確に把握し、適切に使用してはじめて効果的に作用します。当科では、個々の患者様の体質や病態に応じた最適な医療の提供を心掛けています。

糖尿病は慢性疾患であり、通院・治療は一生続くものです。しかし、だからこそ通院や治療が苦痛なものではありません。患者様自身が前向きに糖尿病という疾患に向き合い、治療に取り組めるよう、微力ながらお力になれることを願っております。また、他の病院や診療所などの医療機関との連携を深め、この地域の糖尿病診療の充実に貢献できるよう精進してまいりたいと思います。

糖尿病内科外来診察日のご案内

曜日	月	火	水	木	金
担当医	——	——	野 □	——	野 □

自己紹介



- ①名 前 …………… 野口 周也 (のぐち しゅうや)
- ②年 齢 …………… 40歳
- ③趣 味 …………… 将棋、サイクリング、ドライブ
- ④特 技 …………… リンゴの皮むき
(途切れず最後まで一皮で剥き上げます！)
- ⑤好きな詩 …………… 「雨ニモマケズ」(宮沢賢治)

⑥皆さまへのメッセージ

皆さんが毎月の受診日に、明るく前向きな気持ちで来院できるような診療を目指しています。

熊本宣言 2013

2013年5月、「糖尿病学の進化と絆」をメインテーマとして、第56回日本糖尿病学会年次学術集会在熊本で開催されました。

糖尿病となった方が健康で幸福な寿命を全うするためには、早期から良好な血糖値を維持することが重要です。日本糖尿病学会は、合併症予防のために多くの糖尿病患者様における血糖管理目標値をHbA1c 7%未満とし、より良い血糖管理などを通じて糖尿病の合併症で悩む人々を減らすための努力を惜しまないことを「熊本宣言2013」に込めて宣言しました。新しい目標値とご自身の検査結果を照らし合わせてみてください。現在の状態と次の目標が見えてくると思います。

あなたとあなたの大切な人のために、今できることを私たちと一緒に考えてみませんか？
糖尿病教室は皆さんの参加をお待ちしております。



出典（第56回日本糖尿病学会年次学術集会）

今後の教室開催スケジュールです

詳細は院内に掲示します。

10月	野口医師
11月	吉見薬剤師
12月	原臨床検査技師

糖尿病委員会

臨床検査科より

● 検査項目ワンポイント解説

皆さまが健康診断などの結果を受け取られた時に、よく見られる検査項目について分かりやすく解説します。今回は、前回に引き続き主に肝臓の機能を調べるための検査項目についてです。

● 総蛋白(TP)、アルブミン(Alb)とは なにがわかる？

総蛋白とは血液(血清)中に含まれる蛋白すべての総称です。健康、栄養状態、脱水などの指標とされ、病態のふるい分けとして検査を行います。タンパク質は約100以上もの種類があり、最も量が多いのはアルブミンと呼ばれるもので約6割を占めています。残りの4割はグロブリンと総称されています。

タンパク質は主に肝臓で作られます。肝臓が障害されるとタンパク質が作られなくなり血液中の量が減少します。その代表がアルブミンです。慢性肝炎や肝硬変でアルブミンは低くなり、肝臓の機能を見る一つの指標となります。また、腎臓に病気があり、尿と一緒に蛋白が失われる場合や、小腸や大腸に病気があり栄養素の吸収ができない方でもアルブミンが低くなります。

また、慢性肝炎や肝硬変では、IgGと呼ばれる免疫グロブリンが高値となることが知られています。そのため慢性肝炎などでは上述した通りアルブミンが低下してもグロブリンが高値となれば総蛋白は低下せずむしろ高値となります。

(当院の正常基準値は、総蛋白:6.7～8.3 g/dl、アルブミン:3.9～4.9g/dl)

- 総蛋白.....
 - ・高値の場合...慢性肝炎、肝硬変、骨髄腫、脱水症など
 - ・低値の場合...ネフローゼ症候群、栄養障害など
- アルブミン.....
 - ・高値の場合...脱水症
 - ・低値の場合...慢性肝炎、肝硬変、ネフローゼ症候群、栄養障害など

『がん化学療法看護認定看護師のご紹介』



外来の中央処置室に勤務している、山田易余と申します。

この度、6か月間の研修を経て、がん化学療法看護 認定看護師の資格を取得しました。

「がん化学療法」と言っても、あまり聞き覚えのない方が多いのではないのでしょうか？

がんの治療には、手術や化学療法、放射線治療などがあり、抗がん剤などの薬物療法によってがん細胞の撲滅・減少を目指す治療を「がん化学療法」といいます。

がん化学療法看護認定看護師は、患者様が「安全」「確実」「安楽」に化学療法を受けられるよう、抗がん剤治療の管理を行います。

「安全」とは、人体への影響を最小限に、誤認・誤薬を回避すること。

「確実」とは、治療計画通り確実に患者様に薬を投与すること。

「安楽」とは、最大限に苦痛を緩和すること。抗がん剤による副作用の症状を緩和しながら患者様ができるだけ普段通りの生活で、治療を続けられるよう看護します。

多くの患者様は、「がん」という病気そのものの負のイメージに加え、治療効果や副作用、治療期間、治療費の問題など様々な不安を抱えています。そこで、がん化学療法看護認定看護師として患者様が安心して化学療法が継続できるよう支援する役割があります。日常生活でお困りのことや治療に関すること、経済的なことなど、様々な問題に対して、患者様やご家族と一緒に考え、解決するための具体的な対処方法を提供できるよう努めています。これらの事を、すべて私1人が解決できるわけではなく医師、薬剤師、看護師、検査技師、栄養士、医療ソーシャルワーカーと連携しながら患者様にとって一番良い方法を考えています。

現在、2人に1人ががんと診断され何らかの治療を受けています。がんは死因の第1位であることから平成19年には「がん対策基本法」が施行され、全国どこでも最適ながん医療が受けられます。また多くの抗がん剤が登場したことで生存率が向上するとともに、がん患者様の生活の質が向上する社会を目指し、国も医療機関もがん対策に取り組んでいます。がん化学療法は、以前は入院して行うことが多かったのですが、現在は医療情勢や患者様の生活を重視した視点などから入院だけでなく通院でも行われるよう変化しています。

亀岡市立病院では、地域の中核病院として標準的ながん化学療法を安全で円滑に実施できるよう、平成24年度に化学療法委員会を発足しました。「安全」「確実」「安楽」に行えるようがん化学療法の登録制度やがん化学療法の取り扱い、外来化学療法室の開設に向けての準備に取り組んでいます。

抗がん剤の治療が始まってからではなく、「がん」と告知された時から、患者様と共に希望を探し、がんと共に生きていけるように患者様やご家族の不安や思いに寄り添いながら、サポートできるよう努力して行きたいと思えます。

がん化学療法看護 認定看護師

山田易余



「ふれあい看護体験」

7月24日ふれあい看護体験を実施しました。これは、「看護の日」の事業の一つで、中・高校生や一般市民が医療機関で患者様とのふれあいを通し、看護への理解と関心を高めることを目的としています。

当院で4回目となる今年は、府下2校の高校から3年生1名、2年生3名が参加しました。4名とも将来看護師志望であり、大きな興味を抱き臨んだ様子でした。しかし普段経験することのない「病院(医療者)」という環境でとても緊張していたため、休憩を挟みながら半日病棟で看護体験をしました。病棟では患者様と話をしたり、清拭や配膳などを看護師と共に行いました。体験後の感想は「やりがいがある仕事だと感じた」「看護師は病気を治すだけではない、担当患者以外のことも気かけながら、



多くの事をこなしている」「やっぱり看護師になりたいと強く思った」「笑顔の持つ力は大きいと思った」等と述べていました。参加者が『看護師になる』という目標を、より具体的にすることが出来たのではないかと感じました。

受け入れる病棟では、患者様もスタッフも初々しい白衣の高校生を歓迎し、暖かく見守っていただきました。若い人たちが看護職に興味を抱いてくれることは、臨床の看護師にとっても大きな励みとなります。

この「ふれあい看護体験」は次代を担う高校生が、「看護」に触れ、人や生命、職業について考える価値ある時間になっていることでしょう。



病院職員紹介



看護部 看護師
谷口 真弓

私は8月に少し休みをもらい、2泊3日で静岡県伊豆市の修善寺温泉に車で片道約6時間、愛車の軽自動車を走らせ夫と2人で行ってきました。

運が良いことに雲はありましたが雨も降らず快適に楽しむことができました。

1日目は城ヶ崎海岸に行きました。断崖絶壁から眺める広い海は心地よく嫌なことも吹き飛んでしまうほどの迫力です。また遊歩道になっていて高さ2.3m長さ4.8mのつり橋があり歩くと揺れスリル満点でした。

2日目は浄蓮の滝、河津七滝、旧天城トンネルに行ってきました。どの場所も見どころたくさんで浄蓮の滝では高さ2.5mの大きな滝にマイナスイオンを感じながら滝下にある釣場やワサビ沢を見て癒されてきました。また小説伊豆の踊り子

に登場し有名な旧天城トンネルは長さが石造りの道路トンネルとしては日本最長の44.5mだそう中で中を歩くと暗くてひんやりとしどきどき歩いたのが印象に残っています。

3日目はどこも行かずゆっくり帰ってきました。

2泊3日でしたが中身の濃い楽しい旅になりました。皆さんも休みはあるけど行く場所に悩んだときはぜひ伊豆に行ってみてください。癒しがいっぱいありますよ。



地域連携医のご紹介


当院では、地域の医療機関と連携して、地域に求められる救急医療・高度医療に取り組み、地域医療の向上に貢献することを病院の基本理念として、患者さま中心の医療を展開しています。そこで、本院と関係の深い、地域の連携医療機関を順次紹介させていただきます。

山口マタニティクリニック

院長：山口 裕之

住 所：亀岡市篠町馬堀駅前2-4-7
T E L：22-3518
標榜科目：産婦人科
診療時間：午前9：00～12：00、午後5：00～7：00
木・土曜日の午後および日祝日休診

院長より一言



平素は、亀岡市立病院の皆様方には大変お世話になり、まことにありがとうございます。馬堀駅前で産婦人科を開業し、9月ではや2年になります。私は大阪医大を卒業し、大阪府、滋賀県で仕事をしてきたため、亀岡には全く縁もありませんでした。開業を決意したとき、どこでしたいとの希望はありませんでした。産科医療を必要としている地域で地域の皆様へ貢献したいと考えている時に亀岡のお話がありました。分娩施設の減少で京都市内まで多くの妊婦さんが通われていると聞き、この地で地域医療に貢献しようという話が進み、現在に至ります。当院は馬堀駅前のトロッコ客、ラフティング客が行き来する道に面しており、駅の北側は田園風景で景観は非常によく、入院患者様にもその景観は非常に喜ばれています。

2年になり、月の分娩数も20から30件と何かと忙しくなりました。分娩は時間を問わずあり、産科医療は激務であるとのことで、避けられがちではありますが、無事にかわいい赤ちゃんが生まれた時の微笑ましい瞬間が嬉しくてまた頑張ろうと分娩に携わっています。当院で行うことができることには限界がありますが、地域の皆様が安心して受診できる環境を整えることができたかと考えています。そのためにも、亀岡市立病院ではMRIなどの検査にも至急に対応していただいています。また当院で実施している乳がん検診の高次医療機関としてもいつも大変お世話になっており、時間外でも緊急時は適切にご対応いただいていることは、患者様に非常に満足していただいています。この場を借りて御礼申し上げます。今後とも病診連携を通じ、患者様に安全で高度な診療を施せることに全力を注ぎたいと思います。




宮前診療所

院長：吉岡 隆行

住 所：亀岡市宮前町宮川西垣内17
T E L：26-2002
標榜科目：内科・外科
診療時間：午前9：00～12：00、午後6：00～8：00
土曜日の午後および日祝日休診

院長より一言



亀岡市の西部四町(宮前町・本梅町・東本梅町・畑野町)の住民の方を対象に、宮前町宮川で開業してもう33年になります。故鹿島栄造先生の診療所を引き継いだのですが、現在も多数の患者さんにご利用いただいております。名医なんぞには逆立ちをしてもなれそうにありませんが、何とか良医に一步でも近づいて、開業医生活を終わりたいものだと思うこの頃です。

これまで亀岡市立病院には地理的に遠距離ということもあり、希望される患者さんだけを紹介させてもらってまいりました。ところが昨年からは近くの特別養護老人ホームの配置医をすることになり、時間外等にも度々無理をお願いして、ご高齢の患者さんの診察や入院加療をお世話になっております。

私は団塊の世代生まれで小・中・高の同級生の大多数が、すでに第二の人生を歩き出しております。しかし、私の方は、20年来の付き合いのある患者さんから未だに「まだまだ若い！」と鼻垂れ小僧扱いです。お互い20年、歳を重ねてもやはり人生の先輩に変わりありませんね。

亀岡市立病院病院長・上田和茂先生が座右の銘として、「真実を追求する心・一步でも前へ進む気持ち」(亀岡市医師会報317号・心に残る恩師の言葉)を挙げておられました。病院長として数々の難題を乗り越えてこられたのは、このような強い気持ちがあったからこそだと察しているところです。

院長先生はじめ亀岡市立病院に関係される皆様が、その理想とされる病院を築かれることを期待しております。私も微力ながら、開業医として、又一市民としてお手伝いできれば幸いです。今後共どうぞ宜しくお願い致します。



編集後記

今年は暑い夏でしたが、皆様体調はいかがでしょう？

さて、広報誌「桔梗」の創刊号が2009年9月に発行され今回で13号目となりますが、私は広報委員会のメンバーになってまだ一年半ほどで、広報誌名の“桔梗”についてもよく知らないままだったのでちょっと調べてみました。

6～9月ごろに青紫の星形の花を咲かせる多年草、秋の七草の一つ。“桔梗”は木へんを消すと「更」に「吉」となり縁起がよいため、家紋として用いられ、明智光秀の紋所も桔梗紋となっています。また、桔梗の根は生薬として利用されているそうです。

花言葉は「誠実、変わらぬ愛」とされており、これからも「誠実な気持ちと変わらぬ愛」をもって皆様のお役に立てるよう頑張りたいと思います。

広報委員会 副委員長 吉良 智明(臨床検査技師)

広報誌読者からのご意見等募集案内

本誌『桔梗』の表紙や挿絵に掲載させて頂く写真やイラストを募集させていただきます。テーマの規定はありません。みなさまより多数のご応募を心よりお待ちしております。採用、不採用に関わらず、写真やイラスト、画像データ等のご返却できませんのであらかじめご了承下さい。詳細につきましては、下記担当者までお問い合わせをお願い申し上げます。

【担当者】亀岡市立病院 病院総務課 谷 (平日、午前10時から午後3時まで)



JR馬堀駅から徒歩約5分/京都縦貫道篠インターから車で約5分/駐車(輪)場有

亀岡市立病院

〒621-8585 京都府亀岡市篠町篠野田1-1
TEL 0771-25-7313 FAX 0771-25-7312
<http://www.city.kameoka.kyoto.jp/hospital/access/index.html>

「がんばろう日本」～亀岡市は東日本の復興を支援します～